

PHOTO JOURNAL

2013 SUMMER



写真で歩く世界の都市 BERLIN

ベルリンが写真の街としてにぎわい始めたのは、比較的最近のこと。それは、街の数奇な歴史の経緯と無縁ではない。分断の歴史を持つベルリンの過去と現在。それがいま、写真を通して見えてくる。

歴史の影が色濃く落ちる都市と写真の関係

ベルリンの近現代史には二つの分断がある。ひとつはナチス政権時代の12年間。そしてもうひとつは、40年間にわたる東西ドイツ分断の歴史だ。この歴史的事実がこの街のアート史、そして写真史に落としている影は大きい。1920年、ベルリンで生まれた現代写真の巨匠、故・ヘルムート・ニュートンは、ユダヤ系であったため亡命を余儀なくされ、名声を得てからベルリンに戻ってくるまで、この二つの分断の時代が過ぎるのを待たなければならなかった。

ドイツ統一後、ベルリンは首都に再び咲き、政治の中心地がこの街に戻ってきた。「世界最大の工事現場」と呼ばれたこの街のめまぐるしく変化する様子は多くの若者を、そしてアーティストおよび写真家を引きつけた。1990年代後半以降、名門ギャラリーがそれまでアートと写真ギャ

ラリーのメッカだったケルンからベルリンへの移転を始める。1997年には「カメラ・ワーク」がベルリンに設立され、2000年には写真ギャラリーとして25年の歴史を持つ「キッケン」がケルンからベルリンに移ってきた。そしてドイツ統一10年を機に、同年にベルリンで開催された「マグナム」の回顧展が開催される。手がけたのは大型ミュージアムではなく、フォトグラファーとデザイナー、建築家のオーナー3人によって設立されたカルチャーフォーラム「C/O Berlin」だった。

この間、世の中では何が起こっていただろうか？ インターネットが世界的に普及し、写真の世界にも急速にデジタル化が広がっていった。歴史はいつも同時性をもって進行する。ベルリンの過去数十年の歴史を振り返るだけで、決して人間の意思のみでは動かし得ない、神の手によって導かれる歴史の不思議を感じずにはいられない。そんな歴史に翻弄された街を「写真」を通して味わってみたい。

見市 知、荒井 剛＝取材・文 峯岸進治＝写真

Text: Tomo Miichi, Tsuyoshi Arai Photos: Shinji Minegishi Map: Kenji Oguro

BOOKSTORES

Do you read me?!

最新情報はやはり雑誌にあり!

アートギャラリーの立ち並ぶアウグスト通りにあるブックショップ。ドイツでは珍しい、世界各国の雑誌を中心に扱うショップだ。「アートが40%、写真、建築、ファッションがそれぞれ20%くらいの配分でしょうか」とオーナーのジェシカ・ライツは語るが、例えばトーマス・シュトルートの作品が表紙を飾る植物雑誌も置いている。最先端のフォトマガジンと並んで、なかなか手に入りにくい写真集が見つかるのもこの魅力だ。

① Auguststrasse 28, 10117 Berlin-Mitte
Tel: +49 (0)30 6954 9695 10:00 ~ 19:30 日休
http://www.doyoureadme.de



左:雑誌が手に取りやすいよう、表紙が見やすく並べられた店内。右上:最近シェーネベルク地区にオープンした2号店のリーディンググループ。右下:オーナーのジェシカ・ライツ。



左:店舗内観。右上:ベヒャー、シュトルート、リンドバグなど、写真集の種類と蔵書量が豊富。右下:電車の高架下にある店内は細長く奥行きがある。

Bücherbogen am Savignyplatz

高架下の老舗書店

奥行きのある店内には豊富なアートブック、写真集が並ぶ。建築、デザイン、アート、そして写真の専門書店としてオープンしたのは、まだベルリンの壁が存在した1980年のこと。このあたりは西ベルリンの高級エリアであるシャルロッテンブルク地区だ。ザビニープラッツ駅脇の、Sバーンの高架下というユニークなロケーション。カメラ・ワークなどの有名ギャラリーやベルリン芸大からも近い。

① Stadtbahnbogen 593, 10623 Berlin Tel: +49 (0)30 31869511
10:00 ~ 20:00 (土 ~ 18:00) 日休 http://www.buecherbogen.com

Column

Peperoni Books

強い信念が築いた独立系出版社

写真家ハネス・ヴァンダラーによる写真専門出版社。両親が印刷工を営んでいて幼少から印刷術に親しんだ彼は、ベルリンの閉店した空き店舗を撮影した写真集「Time Out」を自費出版。それが話題となり出版人としての道を歩むこととなる。写真家と一緒にコンセプト、デザイン、印刷の指示、

プロモーションまですべてを一人でやる(印刷は実家の印刷工場)。取り上げるのは、「人はなぜ生きるのか?」という問題定義に取り組んだ写真。写真は、日常の生きるという行為から切り離されるべきではないと、まさにドイツ人的な思慮深い名出版社だ。http://www.peperoni-books.de



Motto Berlin

若手作家のジンも多く揃う

下町の雰囲気漂うクロイツベルク地区のアートブック書店。フランス人オーナーのアレクシス・ザビアロフは、最初スイスのチューリヒで車1台で書籍販売を始め、その後雑誌を発行し、2008年にベルリンにこのショップをオープン。店内の一角には若手アーティストやフォトグラファーの持ち込みによるアートブックやジンが山積み。ベルリンらしいオルタナティブ感あふれる書店で、掘り出し物が見つかりそうだ。

① Skaltzer Str. 68, im Hinterhof, 10997 Berlin Tel: +49 (0)30 4881 6407
12:00 ~ 20:00 日休 http://www.mottodistribution.com



左:有名作家から無名の若手まで、写真集の品揃えが充実している。右上:アーティストによる手作りのジンも多い。右下:店舗外観。

BOOKSTORES

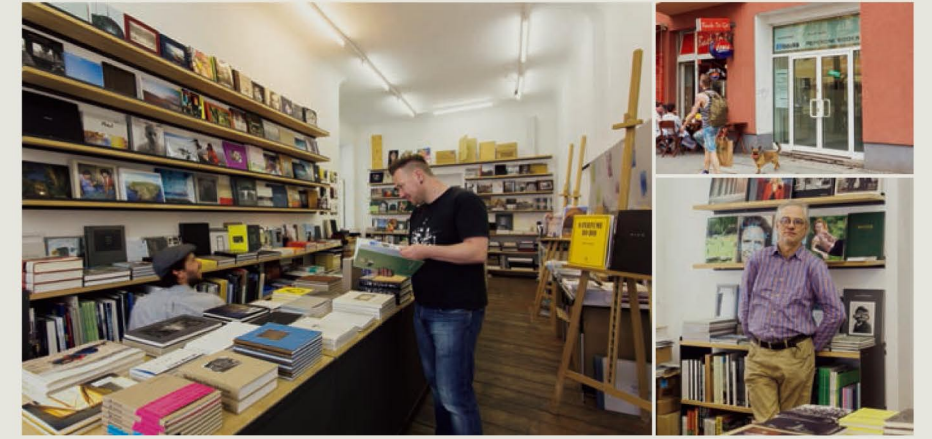
目利きによる厳選された本が誇らしげに並ぶ
ベルリンの個性派ブックショップ

25 Books

リコメンドリストにファン多し

店内に入ると、中央に細長いテーブルが置かれ、その上にいまお薦めの25冊が並んでいる。これが店名の「25 Books」の由来だという。オーナーのハネス・ヴァンダラーが、出版業のベベロニ・ブックスと並行して2009年にオープンした。フォトブックショップとして、またベベロニ・ブックスのショールームとしてこの場所で展示やイベントなども行いながら、ベルリンの写真シーンに欠かせない存在として機能している。

① Brunnenstr. 152, 10115 Berlin
Tel: +49 (0)30 4373 5707 14:00 ~ 19:00
日~火・木休 http://www.25books.com



左:店舗内観。細長いテーブルの上に25冊の本が並ぶ。このセレクションを楽しむに客も多い。右上:店舗外観。右下:オーナーのハネス・ヴァンダラー。



左:場所は東ベルリンのトレンド地区ミッテ。1925年に建築家ハンス・ベルツヒが設計した、バウハウスを思わせる機能的な空間。右上:オープン12周年を祝った店オリジナルの記念出版物。右下:階段の段差を使って雑誌などを置いている。定期的に討論会も行う。

Pro qm

トークイベントも頻繁に開催

書店が知識人たちのディスカッションの場であるという、ベルリンの伝統を守り続ける古株のアートブックショップ。建築、哲学、アート、デザイン、モードなどの分野を扱う。写真集はティルマンスらベルリンで活動する作家のほかに、建築写真であれ、人物写真であれ、ベルリンに関する写真集のコーナーがあるのがこの特徴。ほかに写真理論の書物も多い。ベルリンのデザイナー Blessが作ったオリジナルのエコバッグも。

① Altmstadtstr. 48-50, 10119 Berlin
Tel: +49 (0)30 2472 8520 11:00 ~ 20:00 日休
http://www.pro-qm.de

Wien Lukatsch

隠れ家サロンのアートブックショップ

ベルリン・アートシーンの中心ともいえるミッテ地区のリーニエン通りから、シェーネベルク地区に店舗を移したのは2011年。理由は「場所が広くて家賃が安かったから」とオーナーのバルバラ・ヴィーンはあっさり言い放つ。シュプレー川沿いにある閑静なアルトパウの建物の中にアートブックショップとギャラリーが同居している。隠れ家のサロン風同ショップを訪れる人たちは、やはり心からアートや写真に興味のある層なのだという。

① Schöneberger Ufer 65 3rd floor, 10785 Berlin
Tel: +49 (0)30 2838 5352 13:00 ~ 18:00 (土12:00 ~)
日・月休 http://www.wienlukatsch.de



左:広々とした店舗スペースが魅力。右上:ベヒャー、フェルトマンなど写真集やアートブックも充実。右下:オーナーのバルバラ・ヴィーン(左)とヴィルムール・カチュ(右)。

PHOTO SITES

カフェやバーでも一流の写真に出会える
それがベルリンの魅力



上: 外観はレトロな雰囲気。下: ユルゲン・テラー撮影によるイヴ・サン・ローランのポートレートが異彩を放つ店内。

Paris Bar

偉人たちの貴重なポートレート

古き良き西ベルリンらしさをまだ残しているカント通り周辺。この通りにカフェレストラン、パリス・バーがある。オーナーのミヒェル・ヴェルトレはオーストリア人のアーティストで、もともとフランス軍が所有していたこの店を1979年に引き継いだ。店内には、多くの一流アーティストとの交流を示すユニークなアートと写真のコレクションがひしめく。中でも目玉はユルゲン・テラー撮影によるイヴ・サン・ローランの巨大ポートレート。ほかにも、現代アートの巨匠ヨルク・インメンドルフの若き日のポートレートなど、お宝の写真に出会える貴重な穴場だ。

⑤ Kantstr. 152, 10623 Berlin
Tel: +49 (0)30 313 8052 12:00 ~ 2:00 無休
http://www.parisbar.net/

Column

Miss Read

ベルリンの秋を彩るブックフェア

今年で開催5回目にあたるベルリンベースのアートブックフェア。ベルリンを筆頭に世界各国から100店ものブースが出展される。期間中、アーティストトークやパネルディスカッションなど、さまざまなイベントが行われる。主催しているのは、ベルリンでビエンナーレを実現させたコ

ンテンボラーギャラリーのKW。商業主義になびかず、ゼロから工夫して作り上げていく独立精神がベルリンのアートの特徴でもある。写真集を含むアートブックの今後の動向に注目したい。今年の開催日は9月19日～22日。入場無料。http://www.missread.net



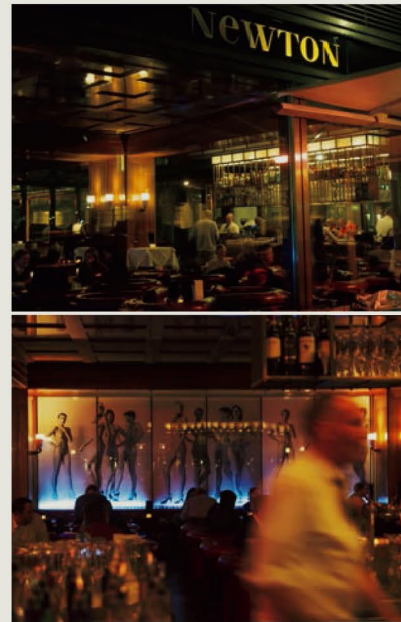
上: オープン席はいつも多くの人で賑わう。下: オーストリア風の料理とコーヒー、そして写真が楽しめる店内。

Cafe Einstein

写真を愛するクラシックカフェ

旧東ベルリンの目抜き通り、ウンター・デン・リンデン。オペラ劇場やコンサートホールの多いこの界隈にあって、サロニックなカフェレストランとして存在感を放つカフェ・アインシュタイン。併設されているギャラリーでは年に5回展示が行われ、写真展が主流だ。これまでにデニス・ホッパー、ヴィム・ヴェンダースらの写真展が話題を呼んだ。オーナーのゲラルド・ウーリヒは俳優、舞台監督としての経歴をもつ。セレブ客も多い有名店でありながら、オープンで居心地のいい店内の雰囲気は、そんなオーナーの演出力の賜物なのかもしれない。

④ Unter den Linden 42, 10117 Berlin
Tel: +49 (0)30 2043 632 7:00 ~ 22:00 無休
http://www.einsteinundl.com



上: シックな店舗外観。下: 店内1階フロアの壁を覆う「ビッグ・ヌード」。暗い照明の中で見ると、逆に迫力満点。

Newton Bar

バーでニュートン作品に浸る

ヘルムート・ニュートンの作品世界が体感できるバー。店内にかかるニュートンの代表作「ビッグ・ヌード」、ニュートンにちなんだ「アブソルート・ニュートン」という名のカクテルや大理石と革のソファのインテリアが、贅沢で退廃的な空間を作りだしている。ニュートン自身も存命中、ベルリン滞りの折にはふらりと立ち寄っていたという。場所は、18世紀にユグノーと呼ばれた亡命新教徒とのゆかりが深い、フランス的な雰囲気が漂うジャンダルメン・マルクト周辺。ここで、亡命の末ベルリンに再び居場所を見出した巨匠の心境に思いを馳せてみるのも悪くない。

④ Charlottenstr. 57, 10117 Berlin
Tel: +49 (0)30 2029 5421 10:00 ~ 03:00(金・土 1:00 ~ 4:00) http://www.newton-bar.de

THE NEXT GENERATION

次の時代の写真界を担っていく
勢いのあるベルリンの若手ギャラリー



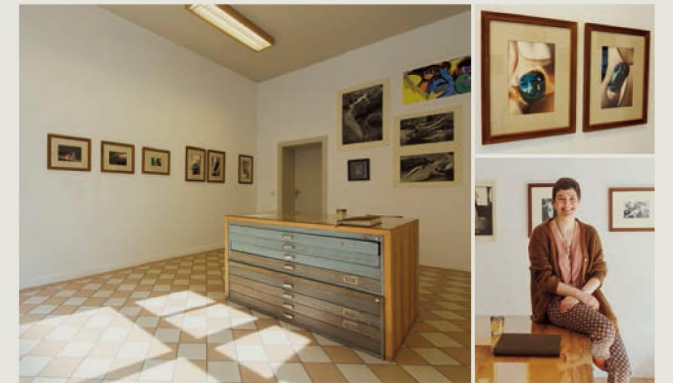
左: ギャラリー内観。右上: ベルリンの写真家50人の作品を集めた展示のオープニング風景。右下: 設立メンバーのミハエル・ビードヴィッツ(左)とベルンハルト・モースパウアー。

Pavlov's Dog

写真家たちのコレクティブスペース

ベルリンで活動する写真家は多いが、無名の若手写真家を積極的に紹介する写真専門ギャラリーが少ないことに目をつけ、フォトエディター、フォトグラファーら5人が集まって2011年に始めたギャラリー。若手作家の展示を中心に、ここに集う人々のつながりを深めることのできるような出会いのきっかけとなるギャラリーを目指している。

④ Bergstr.19, 10115 Berlin Tel: +49 (0)30 5316 2978
16:00 ~ 20:00(木~土)またはアポイント http://www.pavlovsgod.org



左: ギャラリー内観。右上: フランス人女性写真家カミーユ・ヴィヴィエの作品。右下: オーナーのキルステン・ヘルマン。

Galerie für Moderne Fotografie

旧東ドイツのファッション写真にフォーカス

『ヴォーグ』ドイツ版などのファッション誌でスタイリストとして活躍したキルステン・ヘルマンが2008年に開いたアート、ファッション写真中心のフォトギャラリー。その経歴や旧東ドイツのロストック出身というバックグラウンドから、東ドイツ時代のファッション写真に注目。発掘・紹介することが、ライフワークの一部になっているとか。

④ Schröderstrasse 13, 10115 Berlin Tel: +49 (0)30 2758 1033
12:00 ~ 18:00(木~土)またはアポイント http://galeriefuermodernefotografie.com



毎回出版は500冊限定ですべてに作家のサイン入り。オリジナルプリント入りのコレクター本も同時に発売する。

Only Photography

出版社に併設されたギャラリー

グラフィックデザイナーのローランド・アウグストによる写真専門出版社オンリー・フォトグラフィーのショールーム兼オフィス。年2回、写真集の出版を行い、ギャラリーでは出版のためのプレゼンテーションと独自の展示を行っている。ドイツ人作家以外に、東松照明や須田一政などの日本人写真家の出版も。ギャラリーでは写真集も販売。

④ Niebuhrstr. 78, 10629 Berlin
Tel: +49 (0)30 847 20 291 水~金:14:00 ~ 19:00、土:11:00 ~ 16:00 http://www.only-photography.com



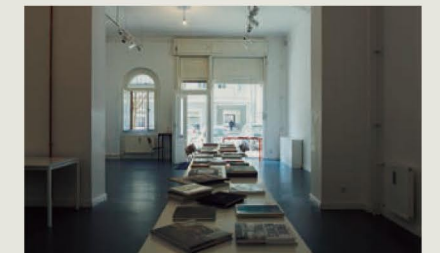
写真と造形を組み合わせた若手アーティスト、ティナ・バイフスの展示風景。

Galerie cubus-m

注目の新エリアの代表格

旧西ベルリンのシェーネベルク地区のハウプト通り沿いに近年、いい若手ギャラリーが増えてきた。クープス・エムもそのひとつ。建築家だったホルガー・マルクアントは、もともとアーティストとのつながりが深く、アート展の設営に関わることも多かったという。ベルリンの写真家ヴィンケ・レーパーなど、次世代の作品を積極的に紹介している。

④ Pohlstr. 75, 10785 Berlin
Tel: +49 (0)30 8149 4690 14:00 ~ 19:00(水~金、土 11:00 ~)またはアポイント http://www.cubus-m.com



ウナギの寝床式に細長いギャラリーの内観。写真集出版を主眼に据えたギャラリー経営をしている。

Kominek Gallery

出版を意識したスペース運営

アレック・ソスの初期作品『Looking for Love』を手がけたこともあるフォトギャラリーのコミネック・ギャラリー。商業写真家として仕事をしてきた経験をもつミハエル・コミネックは、写真集という形に残すことにこだわるギャラリー経営をしていて「本を出すことが最終目的」と言い切る。新進作家の展示および写真集制作にも意欲的だ。

④ Immanuelkirchstr.25, 10405 Berlin
Tel: +49 (0)157 7144 1841 14:00 ~ 19:00(火~金)またはアポイント http://www.kominek-gallery.com

MAP

